

# SHOW-HOMEシネマフルーツ

★★★★★

## テルマ&ルイーズ 4K

1991年／アメリカ映画

配給：アンプラグド／129分

2024（令和6）年2月24日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

2024-22

監督：リドリー・スコット

出演：スザン・サランダン／ジーナ・ディヴィス／ハーヴェイ・カイテル／マイケル・マドセン／プラッド・ピット

### みどころ

今でこそ「シスターフッド映画」という範疇が確立しているが、その先駆けになったのが『テルマとルイーズ』だ。また「アメリカン・ニューシネマ」の代表作は『俺たちに明日はない』（67年）だが、女性版の代表が本作。さらに、ロードムービーの最高傑作も本作だ。

たまには夫や恋人の束縛を離れ、女二人だけで自由な旅を！そんな気楽な動機で始まった車での旅行は、最初から羽目を外しすぎたためか、危うくテルマがレイプ被害を受けそうな事態に。それを救ったのがルイーズだが、そこでハプニングは・・・？幼き日のジョディ・フォスターが主演した『告発の行方』（88年）はそこから激しいレイプシーンと「法廷モノ」の展開が見モノだったが、さて本作は？

1990年代のハリウッド映画の面白さは群を抜いている。また、ロードムービーの楽しさの中で少しずつ見えてくる悲劇性を楽しみつつも、アッと驚くラストシーンに注目！

### ■ “アメリカン・ニューシネマ”の女性版がコレ！ ■

『俺たちに明日はない』（67年）は“アメリカン・ニューシネマ”の代表作として有名だが、女性版“アメリカン・ニューシネマ”的代表作が本作だ。また、2021年のアカデミー賞を受賞した『ノマドランド』（20年）（『シネマ48』24頁）は、現代のノマド、すなわち家を持たずにキャンピングカーで暮らしている人々を主人公にした面白いロードムービーだったが、90年代を代表する傑作ロードムービーが本作だ。

さらに、今でこそ「シスター・フッド映画」という範疇が確立しているが、その先駆けになったのが本作だ。日本のTVドラマに登場する近時の「シスター・フッドもの」は若い

女性を主人公にしたものが多い。男との恋に日々悩みながら自分の生き方を模索する若くて綺麗な女性同士の「シスターフッドもの」も悪くはないが、やっぱり本作のように、ある程度年を重ね、何人かの男経験を経た上で、それなりにたくましい中年女性に成長した“テルマ&ルイーズ”のシスターフッド映画の方がきっと面白いはずだ。

本作冒頭、「シスターフッド」というほどでもなく、単なる息抜き旅行に出かけるだけの“テルマ&ルイーズ”の姿が描かれるが、まさかそれが、その後何十年も代表作として生き続ける、女性版「アメリカン・ニューシネマ」、女性版「俺たちに明日はない」、女性版「ロードムービー」の最高傑作になろうとは！

### ■□なぜルイーズ&テルマではなく、テルマ&ルイーズ?■□■□

本作のタイトル『テルマ&ルイーズ』は、主婦のテルマ（ジーナ・ディヴィス）とダイナーでウェイトレスとして働くルイーズ（スザン・サランダン）という、本作の2人の主人公の名前だが、まさに本作のタイトルにピッタリ。もっとも、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』は男女2人の順序がピッタリはまっているが、本作の場合は、『テルマ&ルイーズ』とするか、それとも『ルイーズ&テルマ』とするかは難しいところだ。

本作が公開された1991年当時の2人の女優の実績と年齢差からすれば、『ルイーズ&テルマ』とすべきかもしれないが、『テルマ&ルイーズ』とされたのはなぜ？それは単なる語感の良さのため？それとも・・・？それはともかく、シスターフッド映画の金字塔が、33年ぶりに4Kで燐然と！

### ■□レイプの着手が暴走なら、銃の発砲射殺も暴走！？■□■□

若き日の（幼き日の？）、ジョディ・フォスターがレイプ事件の被害者役を熱演した、『告発の行方』（88年）は、レイプ事件をめぐる面白い法廷モノに仕上がっていた。それと同じように、本格的ストーリーとして、女2人のロードムービーが始まった途端に、本作でも、旅の途中に立ち寄ったバーで羽目を外してしまったテルマが泥酔する中、店のスケベな男性客ハーラン（ティモシー・カーハート）に駐車場でレイプされかかるシーンが登場する。『告発の行方』では周りの男たちがレイプをけしかけていたが、本作ではそこに駆けつけたルイーズがハーランの頭に銃をつきつけたことによって、なんとかコトなきを…。

そう思っていると、ハーランが何とも嫌味な悪態をついたため、それにブチギレたルイーズが銃を発砲したから、ビックリ！おいおい、いくらなんでも、そりや無茶だろう。レイプを誄めたハーランからド汚い言葉を投げかけられたとはいえ、なぜルイーズは銃を発砲してしまったの？思わず事態に狼狽したテルマは、「警察に言おう」と提案したが、ルイーズはテルマが酒に酔ってハーランと踊っていたことや、レイプの証拠が何もないことから、「テルマの主張は誰も認めてくれない」と反論し、逃走を決意！おいおい、これもちょっと短絡的だぞ！弁護士の私はそう思ったが、ルイーズがそんな行動をとったことには、ある深い事情が・・・。

## ■□■女2人の逃走劇がスタート！しかし三隣亡に？■□■

テルマとルイーズが女二人だけの旅に出たのは、基本的にちょっとした気晴らしのためだ。なかなか切り出せなかったため、結果的に夫に内緒で家を出てしまったテルマにも落ち度があった？ことは確かだが、家を出ていった以上、そんな些細なこと？は忘れて楽しむなくっちゃ。そう思えるところが、テルマのいいところだ。しかしこの先、本当に大丈夫なの？

また、日本には三隣亡と言う言葉があるが、往々にして悪いことは重なって起きるものだ。せつかくルイーズの知恵によって、恋人のジミーからメキシコへの逃走資金を送金してもらったのに、それが逃走の旅の途中で知り合い、テルマと懇ろになったヒッチハイクの若者J.D.（ブラッド・ピット）と出くわし、盗まれてしまうとは！

## ■□■力ネのためなら、コンビニ強盗だってヘッチャラよ！■□■

金がなくてはメキシコへの逃避行など、夢のまた夢。それを認識したテルマは、大金を失った責任感から、コンビニ強盗と言う大胆な行動をとることに。リドリー・スコット監督のここらあたりの脚本力と演出力、そしてまた2人の女優の演技力もさすがだ。レイプの被害者から正当防衛付き？の殺人者へ、そして窃盗の被害者からコンビニ強盗犯への変身ぶりは鮮やかだ。さらに、ここまでストーリーが進むと、それまでストーリーを牽引していたルイーズに代わって、テルマがストーリーの牽引役になっていくことに。

## ■□■ルイーズはなぜテキサス州を回避？この国のかたちは？■□■

日本は独立した統一国家だが、本作を観ていると、アメリカ合衆国はその名の通り、州ごとの連合体であることがよくわかる。それは犯罪者を検挙するためのシステムが、基本的に州ごとに構成されているためだ。ルイーズがメキシコ逃走の計画を立てるロードマップとしてテキサス州を避けたのは一体なぜ？それは本作後半になって次第に明かされると共に、アーカンソー州を担当する捜査官ハル・スローカンプ（ハーヴェイ・カイテル）の捜査における存在感が大きくなってくるのでそれに注目！

州単位の捜査ではなく、州をまたいだ広域の連合捜査となれば、車で逃走しているだけのルイーズとテルマを発見し、逮捕するのはもはや時間の問題だ。

## ■□■壮絶なラストは、『卒業』とともに語り草に！■□■

若き日のダスティン・ホフマンが主演した『卒業』（67年）のラストも良かったが、『俺たちに明日はない』（67年）の壮絶なラストシーンもすばらしかった。これらを見れば、「終わり良ければ総て良し」のことわざがピッタリとハマってくる。しかし何十台と言うパトカーを振り払ったものの、今や警察は空から飛行機で追跡してきたから、ルイーズとテルマは万事休す！二人が追い詰められた場所はグランドキャニオンからわずか数十メートルのところ。だが、そこでの本作ラストはあなた自身の目でしっかりと

2024（令和6）年2月26日記